

廖肇亨氏の特別講演会

自叙伝研究の意義を語る

妙心寺派教化センター・花園大学国際禅学研究所



臨済宗妙心寺派教化センターと花園大学国際禅学研究所は22日、同大学の教堂で、廖肇亨中央研究院中国文哲研究所研究員（台湾）の特別講演会を開き、約60人が参加した。

時代のものや日本の禅僧の自叙伝にも注目すべき中国からの渡来僧で黄檗宗の『了翁祖休禅師行業記』や、鈴木大拙氏の自叙伝などを取り上げた。

野口善敬国禅研所長は「我々はどうしても宗の生きても大切な史料で、一人の人間としての僧侶の姿を浮かび上がらせることができる」と自叙伝研究の意義を語った。（写真）

廖氏は禅僧による「自叙伝」について、明・清期の以降には焦点が当たっていないと指摘。新しい

の研究者の講演会を定期的に続けたいと語っていた。